

令和6年度 第2回 ユニバーサル都市・福岡推進協議会 議事要旨

開催日 : 令和6年9月17日(火) 17:00 ~ 18:30

場所 : 福岡市役所 9階 顧問室

出席者 : 推進協議会委員

定村委員長、平井副委員長、荒牧委員、猪野委員、内野委員、清水委員、張委員、
関根委員、松浦委員、吉住委員 (※鳥越委員欠席)

議 題

- (1) 令和6年度における「ユニバーサル都市・福岡」の推進について(取組状況)
- (2) 福岡市総合計画の検討状況
- (3) 副読本改定にあたって考慮すべき事項について

委員からの主な意見

(1) 令和6年度における「ユニバーサル都市・福岡」の推進(取組状況)への意見

■ ベンチプロジェクトについて

- ベンチへの「ベンチプロジェクト」に関する掲示について、木材の部分への焼印とするなどの工夫をするとよりPRになるのではないか。
- 地下鉄の新車両は座席が少し高く、傾斜がついており、立ったり座ったりがしやすい。交差点ベンチもそのようにするともっとよくなる。

■ 障がい者差別解消に対する理解への取組みについて

- 地域団体に対して、障がい者差別解消などの理解を深める取組みを実施しているが、中小企業は、障がいがある方をどのように雇用してよいか分からないという現状があるため、企業に対してもこのような取組みを実施できるとよい。
- 合理的配慮について、どうしたらいいか分からない事業者等が多いため、事例集や参考モデル集のようなものを作成し、企業や団体などで共有できる仕組みがあるとよい。
- 福岡市が障がい者雇用に率先して取り組んでほしい。

(2) 福岡市総合計画の検討状況に対する意見

- 総合計画における「ユニバーサル都市・福岡」の成果指標は実質的なものに見直すとよい。また、当該指標だけでなく、市や企業の障がい者雇用者数なども用いて、毎年施策の見直しを行うこともよい。
- 法改正に伴い、成年後見制度における本人の意思決定支援のあり方が変わろうとしているため、それに対応した計画にするとよい。
- 福岡市の全小学校に特別支援学級を設置していくことを目標として入れてほしい。
- 基本計画の「障がいの有無に関わらず」という表現について、本来、障がいはグラデーションであり、全員が加齢により、どこかに障がいが出てくることから、「障がいなどに関わらず」という表現に変えてほしい。

(3) 副読本改定にあたって考慮すべき事項について

- ツールチェックだけでなく、リアルなユーザー評価は絶対に行うべき。

(4) その他

- 福岡市にどれだけの多様の人々がいて、どういう人に対してどのようなサービスがあるといった情報が整理されているとよい。そういったことを含めて、本協議会のあり方を議論すべき段階にきている。
- 情報の発信などを行うときは、マイノリティの視点だけでなく、マジョリティがどのような特権を持って生きているか、という視点も入れるとよい。
- 「Wheel of Power」の福岡版を作ること、福岡市のマジョリティの特権の全体像を示すことができるのではないか。